

令和7年度学校評価報告書

令和8年(2026年)3月16日

北海道教育委員会教育長 様

北海道恵庭北高等学校長 辻 芳 恵

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- (1) 主体的に学び、思考・判断することで、自らの未来を切り拓き学び続ける生徒を育てる(思考力)
- (2) 自律の精神を養い、社会の一員としての自覚と自己実現のために行動する生徒を育てる(行動力)
- (3) 心身の健康増進を図り、さまざまな事に挑戦し粘り強くやり遂げる逞しい生徒を育てる(忍耐力)
- (4) 郷土や自他を愛し、協働する喜びと多様な価値観を認め合う人間性豊かな生徒を育てる(友愛力)
- (5) 学校における働き方改革を推進し、教職員相互の資質能力を高め合う職場づくりに努める(=働き方改革の推進)

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 全体として「おおむね十分(B)」の評価であるが、「主体的、協働的な学びの充実に向けた工夫」がC評価(2.5)と低い。 探究活動における生徒の課題設定に難しさを感じているほか、ICT環境(プロジェクター等)の不足を指摘する意見が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 「MA+CHプロジェクト」等による地域連携の探究学習は、生徒の主体性や協調性向上に寄与しており高く評価できる。今後は「調べ学習」から「創造」の段階への深化が課題。 個別最適化された指導に向けた教員の意識・スキル向上と、ICT機器の早急な整備が求められる。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクターの整備を最優先課題として関係機関へ要望・整備する。また、教員間のICT活用スキルの差を埋めるため、実践事例の共有や研修を行う。 探究学習の取組の前段として「課題発見・設定」の手法を学ぶプロセスを組み入れるとともに、教科横断的な視点を取り入れ、探究活動と各教科の連携を進める。 	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活指導は機能しているが、「自己管理能力及び自己肯定感の伸長」が全項目中で最も低いC評価(2.3)である。 教員や学年によって身だしなみ・スマホ使用等の指導基準にブレがあるとの指摘が散見される。 	<ul style="list-style-type: none"> 駅等の公共施設におけるマナーについて、引き続き地域と連携した啓発・見守りを期待する。 生徒会執行部が1年生のみで構成されるなど不慣れな状況があるため、教職員による手厚いサポート体制が望まれる。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導に係る方針を全教職員で再確認し、誰が指導してもブレない体制を作る。特に年度当初に、生徒ヘルールの意図を含めて丁寧に説明する。 様々な場面での生徒の活躍を認め、言葉にして伝える(自己有用感の育成)。アンケートや観察に基づき、SOSを出さない生徒の小さな変化を早期にキャッチし、チームで対応する。 	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 「多様な進路希望に対する指導体制」の評価が低迷(2.5)している。 総合型選抜や学校推薦型選抜等への個別指導が一部の担任に集中し、属人的な負担増となっていることが大きな課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職内定率100%や自衛隊への高い入隊実績など、多様な進路への対応は評価できる。 私立高校の実質無償化等により生徒の選択肢が変化中、中学生や保護者に向けて本校の「強み」や「魅力(探究学習の成果等)」をさらに明確に打ち出し、選ばれる学校としての進路指導・キャリア形成を展開してほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 多様な進路希望に対応するため、担任一人に抱え込まず、進路実現に向けた個別の指導を全教職員で分担する。 3年間の進路行事や探究活動を「キャリア形成のステップ」として体系化し、生徒・保護者・教員がロードマップを共有できるようにする。 	

健康安全 指導	<ul style="list-style-type: none"> 各項目ともB評価（2.6～2.8）で推移している。一方で、メンタル面や生活習慣の乱れに起因する保健室の頻回来室者が一定数存在し、教室の換気等における環境衛生の維持にも課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室の暑さ対策（エアコン等の空調設備）が不十分であり、生徒の健康維持と集中力向上のため、関係機関への継続的かつ強力な整備要望をお願いしたい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション講座（SST等）を取り入れ、生徒が互いの多様な価値観を認め合い、良好な人間関係を築くスキルを育む。 保健室来室状況等を分析し、不登校の予兆がある生徒を早期に特定する。SC（スクールカウンセラー）と担任の連携を強化し、背景にある要因（家庭・友人関係）を含めた支援を行う。 	
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 「各部署の共通理解・連携」がC評価（2.4）、「合意形成」がC評価（2.5）と低い。 分室化による情報共有の遅れや、各部署間の連携への課題感が強い。 	<ul style="list-style-type: none"> 「MA+CHプロジェクト」の道からの予算やコーディネーター配置が次年度で終了することを見据え、優れた探究学習の取組を頓挫させないための「持続可能な運営体制」および「独自の資金確保の仕組み」の構築が急務である。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用することにより、分掌・学年間の壁を取り払い、必要な情報がリアルタイムで職員全体に行き渡る仕組みを作る。 各分掌の業務を整理するとともに、委員会規定を整備し、組織的、計画的に業務を進める。 	
いじめ対策	<ul style="list-style-type: none"> 組織的対応（3.2）等、全項目でB評価以上を得ている。一方で、SNS等による見えにくい場所でのトラブル増加や、生徒の情報モラルに関する懸念が指摘されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 未然防止および発生時の組織的対応の徹底が求められる。 日常的な声掛けや地域社会での見守りを通じて生徒のサインを早期把握し、家庭・地域と連携した対応体制を維持すべきである。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラル教育において、形式的な講話にとどまらず、具体的な事例（SNSトラブル等）を用い、生徒の当事者意識を高める。 教職員自身が、生徒に対する言葉遣いや態度を振り返る研修を行い、生徒が安心して相談できる信頼関係を構築する。 	
信頼される 学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> サービス規律の遵守や体罰防止（3.4～3.5）は極めて高い評価である。一方で、「研修による資質能力の向上」はB評価（2.8）にとどまり、業務多忙による自己研鑽の時間の不足が課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> コンソーシアム等を通じた地元企業や有識者との協働は非常に有意義である。 学校祭のパレード等の学校行事について、町内会の回覧板を活用するなど広報を強化し、より一層地域に開かれ、応援される学校づくりを進めてほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 学校HPや公式note、学校だより、保護者配信メールを活用し、生徒の活躍や学校の教育活動を「新鮮なうちに」発信する。地域・保護者への説明責任を果たし、応援団を増やす。 授業改善やICT活用等について、校内研修だけでなく、校外の集合研修や、オンデマンド研修等を活用し、多忙な中でも教員が学び続けられる環境を整える。 	
今日的課題	<ul style="list-style-type: none"> 「勤務時間を意識した働き方」が全項目中最も低いC評価（2.4）である。 特定の教員への業務集中や長時間勤務の常態化、施設設備の不備が教育活動に影響している。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の多忙感や指導における負担感が窺える。DXやICT活用による校務効率化を推進し、教員が自己研鑽や生徒への個別対応に注力できる環境（働き方改革）を整えることが重要である。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ポータルサイトをさらに充実させ、ICTを有効活用した情報共有と校務の効率化をさらに進める。 担任、副担任の業務分担を明確にし、平準化を図るとともに、業務をマニュアル化し、スムーズな引継ぎにより、属人化を排除し標準化を進める。 	
公表方法	学校Webページに掲載する。	